

2013年夏号

仙台市

農政だより



発行 仙台市経済局農林部(農政企画課、東部農業復興室、農業振興課、農林土木課)
 〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1 電話 022-214-8265(農政企画課) FAX 022-214-8338
 ホームページ http://www.city.sendai.jp/business/d/keizai_03.html
 Eメール kei008110@city.sendai.jp(農政企画課)

農地所有者

仲介調整役

地域農業の担い手



農地の一括的な管理の手法(イメージ)

地域農業の未来のために

— 農地集積に向け、新たな手法を導入します —

仙台東部地域においては、秋からは場整備の工事が開始される予定です。

この工事では、農地の大区画化、農道の拡幅、用水路のパイプライン化等を実施します。

今後は、整備された農地において、より効率的で生産性の高い農業経営が展開できるよう、農地集積の取り組みが重要となります。

農地を集積することで、農業の担い手が安心かつ安定した営農を実現し、次世代の農業者及び新規就農者が農業に魅力を感じ、意欲的な取り組みを推進できる環境を整えます。

仙台市では、農地集積を進める新たな手法として、JA仙台と連携し、農地の一括的な管理手法を導入します。こ

れは、市とJA仙台が仲介役となり、地域の農地の賃貸借を一括して管理し、農地を担い手の規模や経営状況に合わせて面的にまとめて、配分していく手法です。市とJAが仲介役を担うことで、農業者の皆様が抱える個別の事情にも対応しながら、地域の皆様が描く地域農業の将来像の実現に向け、農地のコーディネーターを行うことが可能となります。

今後は、荒浜地区や、井土地区などをモデル地区としてこの取り組みを推進し、将来は市全域へこの手法を導入し、農地集積の実現を図っていきます。

【東部農業復興室事業調整係

214・7328】

仙台東地区及び四郎丸地区 ほ場整備事業の事業計画が 確定しました

津波の被害を受けた仙台市沿岸部の農地において、ほ場整備事業を進めています。この度、仙台東地区および四郎丸地区において事業計画が確定したのでお知らせします。

〓仙台東地区〓

仙台東地区では、被災した約1,800haの農地のうち、約1,400haの農地で営農が再開し、残る約400haについて、現在、復旧工事を進めているところと、復旧工事を進めているところとです。

当地区の更なる復興に向けた取り組みとして、被災した農地及びそれらに隣接した農地を対象に東北農政局によりほ場整備事業が進められています。

各集落との話し合いを進め、6月22日にはほ場整備の事業計画

が確定しました。今後は、工事計画や換地計画等の合意形成が図られた集落から、順次、工事に着手することになります。

〔地区面積〕

約2,200ha

〔工期(予定)〕

平成24年度～平成28年度

〓四郎丸地区〓

四郎丸地区においても、被害を受けた約60haの農地において平成24年度に営農を再開するとともに、宮城県によりほ場整備事業が進められています。

6月4日に事業計画が確定しましたので、今後は工事計画や換地計画の作成等を進め、工事に着手します。

〔地区面積〕

約100ha

〔工期(予定)〕

平成25年度～平成27年度

【東部農業復興室復興支援係】

214・7327

農薬は責任を持って 正しく使いましょう

消費者の食の安全を守るため、市場や小売店等の流通段階で、残留農薬や食中毒の原因となる微生物などの様々な検査が行われています。この検査において、平成24年度、25年度に仙台市内で生産された野菜から残留基準値を超える農薬が検出されました。いずれも、使ってはいけない作物に使ったこと(適用外使用)が原因です。このようなことがあると、仙台産農産物全体の信用が落ちることにつながります。

消費者から信頼される安全・安心な農産物を生産するため、農薬は使用基準の遵守と飛散防止の徹底など責任を持って正しく使いましょう。

①ラベルに記載された内容に従って使用する

対象の作物に適用のある農薬を、ラベルに記載された希釈倍率、使用時期、総使用回数、使

用方法及び使用上の注意事項を守って使いましょう。

②生産履歴等に使用記録を残し、保管する

農薬を使用した年月日・場所、農薬の商品名、単位面積当たりの使用量や希釈倍率について生産履歴等に記載し、一定期間保管しましょう。

③周囲への飛散予防対策をとる

農薬の散布は無風又は風が弱い時に行うなど配慮し、飛散を抑制するノズルの使用や向き等に注意しましょう。

④農薬の事故を防止する

農薬散布時にはマスクや手袋等を着用し、事故を未然に防ぎましょう。

⑤無登録農薬を使用しない

農薬ラベルに登録番号(農林水産省登録第〇号)が記載されていないものは使用してはいけません。

⑥農薬は鍵のある保管庫で保管する

【農業振興課生産振興係】
214・8335

生産技術情報 土づくり

土壌病害と対策について

○土壌病害

昨今は栽培技術や施設の進歩もあり、ほぼ周年的に作物を供給できるようになりました。このことが、同じ場所と同じ作物を連続で栽培することにつながり、年々作物の生育が悪くなつて収量や品質が落ち、「連作障害」を招く結果となりました。優良産地、ブランド作物ほど避けることのできない大きな問題となっております。その原因として土壌病害があります。土壌伝染性病害ともいわれ、土壌中の病原が作物の根や茎に寄生し、根腐れや茎葉の黄化、萎凋などを起こす病気の総称です。病原の種類はカビ、細菌、ウイルスなど多岐にわたっており、カビの寄生によるものが最も種類が多く、フザリウム、リゾクトニア、バーティシリウムなどの寄生による萎凋病、つる割れ病、

立枯病、根腐病、黄化病などがあります。細菌によるものでは青枯れ病、軟腐病などがあります。ウイルスによるものではモザイク病、えそ斑点病などがあります。

○対策

土壌病害による連作障害を回避するには、作物の種類を変え、輪作が効果的ですが、供給量の確保や経営的に難しく連作を行う場合は、対策を行うことが必要です。次に紹介する対策については、それぞれ一長一短があるため合理的に組み合わせています。

・薬剤防除

土壌消毒は、効果の安定性やコスト面から最も一般的な方法です。以前登録があった臭化メチルは、雑草防除にまで効果を示した薬剤として長年広く使われてきましたが、オゾン層破壊物質に指定されたため使用できなくなりました。代替え薬剤として多種登録されていますので、それぞれの効果と使用方法を確認し、使用基準を順守して防除

することが大切です。

・物理的防除等

熱水や太陽熱を利用することで土壌病害菌などを防除する方法です。カビや細菌は、55℃、60℃の湿熱を加えると短時間で容易に死滅します。ウイルスも100℃では不活化されることが知られています。蒸気消毒は、土壌に蒸気を通して加熱する方法です。作業性や効果の有効性から施設などの小面積を対象とした防除方法です。消毒時間が短く、ほとんどの生物を死滅できる他、通気性、保水性が向上しますが、深部への効果が不十分となるなどの欠点があります。熱水消毒は、ポイラーで90℃以上のお湯を沸かして土壌に染み込ませて防除します。高い効果が期待できますが、低温期や土壌の性質により効果が変わること、処理時間を要するのが欠点です。太陽熱消毒は、夏季に稲わらなどの有機物と石灰窒素を加えて深耕し、土壌表面をポリエチレンフィルムで被覆して30日以上密閉します。安価で農薬残留のない方法です。

が、地下20cmの地温が45℃以上に維持できないと効果があまり期待できません。

・生態的防除

耕種的、生物的方法によって土壌環境、宿主抵抗性あるいは土壌微生物に影響を与えて、土壌病害の被害を回避または軽減させる方法です。輪作は、畑において作物が発病しなくなるまでの年数が2～3年のものが多く、中には5年以上の期間を必要とするものもあるので注意が必要です。完熟堆肥の施用は、土壌の物理性、化学性を改善して多くの土壌病害を軽減するのに有効です。抵抗性品種や台木の利用も有効な対策と言えます。しかし、普及するに当たってこれを侵す病原の系統(レース)が出現し、抵抗性が無効となる場合がありますので注意が必要です。被害植物の除去、焼却などのほ場衛生は、基本的な防除方法なので、排水や高畝栽培などと併せて総合的に対策を行います。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

生産技術情報 花き

直売所向け切り花の栽培法

品質の良い花を適期に収穫できる技術を紹介します。

○グラジオラス（春咲き）

夏咲きに比べ日照条件によるブラインドがなく、切り花本数が多く、花色は赤、ピンク、黄、白、紫などで芳香性のもものもあります。定植は9月中旬に、無加温のビニールハウスで日当たり、排水の良い圃場を選定し、土壌はpH6前後に調整。基肥は1a当たり堆肥200kg、成分量でN3・2kg、P3・6kg、K2・4kgを施用します。球根は大球を植え、1a当たり2、700〜3、300球、定植前に必ず球根消毒を行います。2条千鳥植えは床幅75cm、株間10cm、条間15cm。ベッド植えは床幅90〜120cm、株間・条間15cm、6〜8条植えとします。覆土は3〜4cm程度で、発芽後15cm目のフラワーネットを張り、

茎が伸び次第、芽をネットに1本ずつ入れます。保温は発芽まで20℃、それ以降は25℃を目標にします。低温（5℃）が予想される場合はトンネルで被覆し、30℃以上にならないよう開閉を行います。追肥は1a当たり成分量でN2kg、P1・5kg、K1・7kgを本葉3枚の頃施用します。収穫適期は3月中旬〜4月で下から2花が色づいた時、下葉を1〜2枚残して朝に行います。水揚げは10cm程度の水に一晩つけます。採花後、調製の際は速やかに束ねて立てて置いてください。

○キンセンカ

ハウス栽培の秋播き耐寒性一年草で、8月中旬播種では暮出し、9月上旬播種では1月下旬から彼岸出しができて花色は橙、黄が主体で一重咲、八重咲があります。発芽適温は15〜20℃で、日照、排水、通風の良い場所を選びます。必要播種量は1a当たり300mlで、床幅100cm、株間・条間5cmで播種し、薄めに覆土して十分に灌水します。播種床は寒冷紗などで日除けします。2〜5日程度で発芽し、

50〜60%発芽したら徒長防止のため寒冷紗を取り除きます。定植は本葉5〜6枚の株が良く、播種が8月中旬では9月中旬、9月上旬では10月上旬に行います。土壌はpH6〜6・5、基肥は1a当たり成分量でN2・7kg、P、K2・1kgを施用します。床幅70cm、株間・条間20cmの2条植えて、浅く植えた後根元をしつかりと押さえ込みます。定植後は乾燥気味にし、追肥は1a当たり成分量でN0・7kg、P1・4kg、K1kgを施用し、本葉10枚前後の時に基部6〜7節を残して摘芯し、側枝5〜6本に仕立て、フラワーネットで倒伏を防ぎます。収穫適期は暮出し・彼岸出荷で3〜5分咲き、冬季出荷で7分咲きです。収穫は分枝した元から切り、下葉2〜3枚を取り除き水揚げせずに出荷します。

○アグロステンマ

ヨーロッパ原産のナデシコ科です。茎は細く草丈60〜90cm以上になり、明るい赤紫色の花弁の中央に鮮やかな放射状の線が入ります。ハウス、露地栽培が

でき秋播き耐寒性一年草ですが、こぼれ種から毎年生えます。9月中旬播種で発芽適温は18〜20℃、直播も可能ですが、育苗する場合は128〜200穴のセルトレイへ1粒播きか育苗箱に条播きしてポリポットに鉢上げします。必要播種量は1a当たり30mlで約3、000粒。播種後2週間で本葉1〜2枚展開します。11月中旬の本葉が2〜3枚展開してきた頃に日当たり、排水が良い場所を選び定植します。床幅75cm、株間・条間25cmの3条植えてやや高床にし、基肥は普通の圃場（前作あり）では不要です。主枝の伸長開始までは十分に灌水し枝を充実させ、その後乾燥気味に育てます。耐寒性ではありますが冬は敷きわらなどの防寒が必要です。側枝の揃いを良くするため、10〜15cmになった時点で主枝を摘芯します。収穫は茎が折れやすいので丁寧に扱い扱い採花後速やかに水揚げを行います。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

農家レストランが

市内にオープン!

農業者が自ら栽培した農産物等を使い、料理を提供する農家レストランが、仙台市内に続々開店しています。農家レストランの開業等、6次産業化をお考えの方は、お気軽にご相談ください。

畑の中のごはん屋 ちようこうら

若林区日辺字宅地96

震災で大規模半壊した自宅の改修に併せて平成24年12月に農家レストランを開業しました。



自家栽培した野菜料理の提供のほか、農産物を題材にした寸劇を行うなど、食育の推進にも取り組んでいます。

おにぎり茶屋 ちかちゃん

若林区蒲町31、15

六次産業化法に基づいた総合化事業計画の認定を受け、国や市の事業を活用し、農産



加工施設等を新設しました。また、自ら生

産した米や味噌の販路拡大を図るため、平成25年5月に農家レストランを開業し、加工・販売まで取り組む6次産業化を実践しています。

柳生旬彩 ひだまり

太白区柳生6、13、6

六次産業化法に基づいた総合化事業計画の認定を受け、加工・販売に必要な機械・施設の整備支援により、平成25年7月に農家レストランを開業しました。自家製トマトや地元野菜にこだわった料理の提供に力を入れています。



【農業振興課農工商連携推進室

214・8266】

仙台市からのお知らせ

農業園芸センターで行う講習会の参加者募集

●野菜販売力アップ講習会

いかに生産物の差別化を図り、付加価値の高い商品として販売できるかが、直売所での課題の一つです。実績を上げている直売所の現状を知り、所得向上に繋げるための講習会を開催します。

◆日時

9月10日(火)
13時30分～15時30分

◆講師 榎かほく・上品の郷

直売所所長 小野寺志すえ氏

◆募集人数 30名

◆締切 9月4日(水)

●農業者実践セミナー

農業経営の意識を高め、販売拡大や農業収益の向上を促進するため、販売・経営等に必要な知識を習得する研修会を行います。

◆日時

①「複式簿記を学ぼう(1)」
②「複式簿記を学ぼう(2)」
③「農産物の販売について」

◆日時

①9月5日(木) ②9月12日(木)

◆日時

③10月2日(水)
13時30分～15時30分

◆講師 ①・②仙台市農業園芸振興協会 伊藤順一氏

③芳賀果樹園代表 芳賀秀二氏

◆募集人数 各20名

◆締切

①・②8月30日(金)
③9月25日(水)

●土壌診断の結果を読み解く

土壌分析を行い適正な施肥量を導き出し、肥料の使用量削減と塩基バランスの崩れを見直すための検討会を行います。

◆日時

①露地野菜コース
②ハウス野菜コース

◆日時

①10月16日(水) ②10月18日(金)
13時30分～15時30分

◆講師

①JA仙台 安井孝臣氏

②榊崎玉農工機科販売

技術部 部長 皆川秀孝氏

◆募集人数 各10名程度

◆締切 9月18日(水)

それぞれ締切までに、講座名、希望コース、住所、氏名、電話番号をお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

288・1771】

農地集積に協力する方に支援金を交付します

地域の担い手へ農地を集積するために、所有する農地を新たにJAに白紙委任(※)した場合、対象者に支援金を交付します。

※ 6年以上の利用権設定又は特定作業受委託契約をすることについて、相手方を指せず10年以上の委任をすること

(1) 農地集積支援金

◆ 対象者 ① 離農する方 ② 土地利型農業からの転換者等

◆ 交付額
0.5 ha以下……………30万円
0.5 ha超2 ha以下……………50万円
2 ha超……………70万円

※ 転作等により面積を補正します。

◆ 交付要件 農地の出し手・受け手ともに経営再開マスタープランに掲載された後に、出し手の農地の全てを賃貸借契約する必要があります。

(2) 分散農地利用集積支援金

◆ 対象者 地域の担い手の農地に隣接した農地の所有者等

◆ 交付額 5千円/10a

◆ 交付要件 農地の受け手が地

域の経営再開マスタープランに掲載された後に、該当する農地を賃貸借契約する必要があります。

(1)、(2)の要件の確認、マスタープランへの掲載手続き等についてご説明しますので、交付を希望される方は、左記までご連絡ください。

【農業振興課生産振興係

214・8335】

【東部農業復興事業調整係

214・7328】

経営能力向上のための研修等の経費を補助します

農業経営についての研修や経営診断を受ける場合の経費を補助します。

◆ 補助額 上限3万円/件

◆ 補助回数 研修は最大5件まで、経営診断は1件

◆ 対象者 経営再開マスタープランに位置づけられた担い手及びその構成員。

◆ 対象となる研修等 ① 有料の研修等で、内容・日時等が公表されているもの ② 対象者の今後の農業経営に必要で効果

を有するものであること(交通費・宿泊費等は除きます。)希望される方は、左記までご連絡ください。

【農業振興課生産振興係

214・8335】

農商工連携等に関する相談窓口を設置しています

農産物の加工に取り組みたい方、販路を拡大したい方、商談会に農産物等を出展してみたい方、農商工連携(※1)による新たな商品開発等をお考えの方は、相談窓口を設置していますのでお気軽にご相談ください。

また、国の6次産業化(※2)の認定や補助申請などの手続きに関するについても、随時受け付けていますのでご相談ください。

※1 農業者と商工業者が連携し、互いの強みを出し合い、新商品等を開発する取り組み

※2 農業者が農産物の生産及びその加工又は販売を一体的に行う取り組み

【農業振興課農商工連携推進室
214・8266】

平成26年度の事業実施者募集

来年度に「強い農業づくり交付金」や「経営体育成事業」等で施設や機械の整備を検討している方は左記までご相談ください。

● 強い農業づくり交付金

乾燥調製施設、鉄骨ハウス等の整備

◆ 補助率 1/2以内

◆ 対象者 農業者が組織する団体等

● 経営体育成事業

トラクター、田植機等の導入

◆ 補助率 3/10と1/2以内

◆ 対象者 経営再開マスタープラン掲載者等

【農業振興課生産振興係

214・8335】

サルやクマの餌づけになる

お墓のお供え物は必ず持ち帰りを!

お墓のお供え物は、サルやクマが人間の食べ物の味を覚え、人に下りる大きな原因となります。お供え物はその場で残さずいただくか、持ち帰りましょう。

【農政企画課農地保全係
214・8334】